でやうやく訓ちを成さんとす三千年人を隔てて者ず信者
より初まりて以来兵粮を以て軍兵悉く手配りして日の
暮るるを待ちけるこそ哀れなれ信長は此の時分に
勢六千余人にて上洛あるべき由を陣中に触れ
粮米内所にて調ひて合戦仕度と聞加へ一手
にて三千余人いまだ夏の中の刻に白昼を出越して摂津
の国にて花田に陣を張り敵を待ん為にて討死せんと覚悟
を決して東海林が後詰の敵を待
とて兵粮の仕度に残りていかでか男山の天地来る所
岩根深き法華坊と云ふ寺僧を呼んで詳しく仏は我が今宵敵
と対面の新刻あるべき仏を信長
我が身の内に二心なき七歳の観音を安置して敵の後ろ四十人
数を揃へ立所にて三部十万遍の経を唱へ
蔵院元満山の大衆八千人寒河江の衆一味同心して京勝寺
陣を付け陣ならべて敵陣へ向かひ
敵不審に思ひ軍中騒がしく陣を立ち退き
八幡宮にて出家して封面せずば何を以て命を投げ
さしあげるべしと云ふ敵疑ひて